



架け橋期のカリキュラム①(事例①)の保育を行った保育園と小学校とが協働作成)

共通の視点		月	5歳児												
		0歳～	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
期待する子ども像		あそびで育つ 輝くさいたまの子													
		【園の目指す子ども像】 ○心身ともに丈夫な体の子 ○社会に胸を張って生きていく子 ○見たもの感じたものに感動する子													
発達段階を踏まえた 先生のねがい 留意点			【さいたま市幼児教育の指針】 ○ありのままの自分で安心して生活する《ゆったり》 ⇒主体的に活動したり、難しい課題に粘り強く挑戦したりする意欲や探求心の育ち ○健やかな体で安全・快適に生活する《すくすく》 ⇒見通しをもち、自信をもって自ら進んで学びに向かう力 ○主体的・自発的に活動する《わくわく》 ⇒思考力の芽生えや主体的に取り組む力・身近な社会生活を通した学びの場の広がり ○自分なりの表現で人やものとかかわる《のびのび》 ⇒主体的・協働的な学びの姿												
期のねらい 具体的な活動内容			1期 【ねらい】 5歳児クラスに進級したことを喜び期待や意欲を持ってすごす。 ・食育（春野菜、畑作り） ・内科健診 ・青空弁当 ・避難訓練 ・お誕生会	2期 【ねらい】 夏ならではの遊びや行事を通して友だちと一緒に過ごす楽しさや協力し合う満足感を味わう。 ・お店屋さんごっこ ・じゃがいも掘り ・プール ・夕涼み会 ・スイカ割り、流しそうめん ・歯科健診 ・避難訓練・お誕生会	3期 【ねらい】 体を十分に動かし友だちと一緒に運動遊びや表現遊びを主体的に楽しむ。 ・作品展・遠足 ・運動会・クリスマス会 ・人形劇・内科健診 ・クッキング茶器作り ・避難訓練 ・お誕生会	4期 【ねらい】 就学に対する期待と喜びを感じながら見通しをもった行動をする。 ・マラソン大会 ・コマ廻し大会 ・発表会 ・卒園式 ・幼保小連絡協議会 ・避難訓練 ・お誕生会									
配慮事項	先生の関わり		○生活主体としての子ども、子どもの思いを尊重する。 ○子ども自身が必要感を持った基本的な生活習慣の習得への意識を高める。 ○遊びの中での試行錯誤を保障する。 ○一人ひとりの遊びの充実と仲間とのかかわりを支援する。												
	子どもの学びや生活を豊かにする環境構成		○安心、くつろぎ、自分らしく過ごすことができる環境づくり ○心と体を十分に動かせる環境の工夫 ○生活の中での気付きを遊びに取り入れ、互いに影響し合える環境づくり ○子どもの豊かな感性を引き出す環境づくり												
園で展開される活動 / 小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成			○生活に必要な生活習慣を身に付け、その大切さを理解して行動する。⇒生活習慣が自立し、自信をもって生活する。 ○主体的な活動を通して自信を高め、自己を十分に発揮する。⇒満足感や達成感を十分味わい、就学に期待をもつ。 ○身体全体を供応させる動作を楽しむ。⇒全身運動がなめらかになり、積極的に様々な運動をする。 ○自分の思いや考えを伝え、相手の話を聞き自分とは異なる思いや考えに気付く。 ⇒友だちの意見に共感したり、言い合いながら調整し、仲間との関係を深める。 ○数量、図形、時間に興味を持ち、生活や遊びの中で使う⇒日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心を高める。 ○身近な自然やものを五感で感じ取り、思ったこと想像したことなどを、様々な方法で表現する。 ⇒様々な知識や経験を生かし、創意工夫しながら、遊びを発展させる。												
子どもの交流			・小学生とのなかよし交流会												
家庭や地域との連携			・入園式 ・福祉施設訪問 ・ジャガイモ掘り ・懇談会 ・敬老の日 ・運動会 ・〇〇中幼児ふれあい体験 ・発表会 ・懇談会 ・交通安全教室 ・卒園式												

小学校1年生												小学校2年生～	
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人													
【小学校の目指す人間像】 ○自分の力で考え行動する子 ○ともだちと協働する子 ○心身ともに健康な子 ○人との関わりを大切にする子													
○知・徳・体・コミュニケーションのバランスの取れた「生きる力」を育むことを目指し、発達の段階や特性を踏まえ、資質・能力の三つの柱の育成がバランスよく実現できるようにする。 ○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにする。													
スタートカリキュラム (入学後、2週間程度)													
【幼児期の教育を通じて身に付けたことを生かしながら】 ・生活科を中心とした総合的・関連的指導 ・1単位時間 45 分を短時間に区切って実施 ・児童が自然な形で意欲的に学習に取り組めるような課題設定、課題選択の場の設定、工夫した教材作成 等													
【ねらい】 学校生活を知り、友だちや先生との信頼関係を築き、安心して楽しむ。 ・学校たんけん、校庭たんけん、通学路たんけん ・体育着・給食着の着方・しまい方 ・避難訓練 ・健康診断 ・1年生を迎える会 ・運動会、水遊び（プール）													
【ねらい】 友だちや先生との信頼関係を深め、安心してのびのびと学校生活を送る。 ・持久走記録会 ・保育者小学校等体験研修													
【ねらい】 できるようになったことが増えたことを喜び、2年生進級に向けての期待感をもつ。 ・幼保小連絡会(入学予定者連絡会) ・ハッピースタート1年生の会（生活科の授業の一環として、5歳児を学校に招待して小学校のことを伝える等） ・新入学保護者説明会 ・幼保小連絡協議会													
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現													
○子ども一人ひとりの学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割を目指す。 ○児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かい、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を更に伸ばしていけるようにする。 ○インクルーシブ教育システムの理念の構築を目指し、全ての子どもが適切な教育を受けられるようにする。													
○1人1台端末を活用し、学習の基盤となる資質・能力の確実な育成、多様な一人ひとりの興味・関心等に応じ意欲を高めやりたいことを深められる学びを目指す。 ○地域住民等と連携協働し、学校と地域が相互にパートナーとして一体となって子どもの成長を支える。													
道徳教育（相手の気持ちを考える 気持ちや行動を自律的に調整する きまりを守ることのよさを実感する） 各教科等の学習・生活（新しい環境や教科等の学習に興味・関心をもち主体的に関わる 実感を伴った理解を深める 一緒に遊ぶ・話し合う） 異学年交流（協働することや他者の役に立ったり社会に貢献したりすることの喜びを得られる活動を重視する） ＜生活＞とどきどきわくわく1年生 ＜国語＞あかいるあいさつ わたしのなまえ ＜書写＞みつけてみよう かいてみよう ＜特活＞1年生になって ＜音楽＞うたてうごいてみんなでおんがく ＜算数＞あわせていくつ ふえるといくつ ＜体育＞多様な動きをつくる運動遊び ＜図工＞造形遊び ＜特活＞係活動 ＜生活＞たのしい秋いっぱい ＜体育＞運動会練習 ＜特活＞〇〇まつりをしよう ＜国語＞国語の学習を振り返ろう ＜算数＞1年の復習 ＜生活＞もうすぐ2年生 ＜特活＞さよなら集会をしよう ＜G.S＞体を使って遊ぼう 振り返り ○生活科を中心に、時間を弾力的に取り扱い、総合的・関連的な指導や弾力的な時間割を設定する。 ○個と協働を往還する児童同士の学び合いを重視し、試行錯誤しながら実感を伴った理解を深めることができるような単元構成にする。													
・校庭への散歩・学校行事や事前練習 ・生活科の授業（校庭たんけん、通学路たんけん、秋のおもちゃづくり、もうすぐ2年生、なかよし交流会 など）													
・生活科の授業（おもちゃづくり・町たんけん など）													
・入学式・授業参観・懇談会、学校公開・個人面談・感謝の集い・チャレンジスクール・運動会 ・コミュニティ・スクール（学校運営協議会）・就学時健診・連小まつり ・新入学保護者説明会・自転車安全教室・生活科の授業													
・生活科の授業（町たんけん など）													

※「さいたま市幼児教育の指針」「学習指導要領解説 総則編」より一部引用

事例① 4つの視点『 わくわく 』5歳児クラス・4月～7月
期のねらい「5歳児クラスに進級したことを喜び期待や意欲を持って過ごす。」

「自然が教えてくれたこと ―野菜を栽培する経験を通して―」

園の暮らし、子どもの姿

本園では、和太鼓や茶道、英会話など、子どもたちが様々な活動を経験することを大切にしています。また、虫探しや植物を使ったごっこ遊びなど、日常的に自然に触れ合うことを楽しみながら、自然の中でのびのびと育つ子どもたちの様子を家庭と共有し、園生活と家庭生活のつながりを大切にしています。

5歳児クラスに進級し、1番初めに取り組む野菜作り。5歳児の子どもたちは、日常的に植物に触れ合うことで、「これは食べられるのかな？」などの疑問や「この種植えたら芽がでるかな？」といった植物に対する興味がわき、食べることや育てることへの関心が高まっています。4歳児クラスの終わり頃には、「5歳さんになったら何を植えようかな」と、野菜作りを楽しみにしている子どもたちの姿がありました。

あそびのはじまり

八百屋さんの手遊びで、知っている野菜の名前を出し合っていると、「の・び・る」と言った子がいました。「のびる」を知らない子どもたちは、「そんなのないよ」と言い出します。そこで、保育者が「のびる」は野菜であることを話すと、子どもたちは興味津々。「公園に探しに行きたい」、「保育園に植えたい」という子どもたちの思いから、のびるを園庭に植えてみることにしました。のびるは育たず枯れてしまいましたが、野菜の栽培に興味をもった子どもたちの思いをつなぎ、ピーマン、茄子、ズッキーニ、キュウリ、トマトの栽培を始めました。

あそびの広がり、あそびの深まり

《子どもの様子》

■苗の植え付けをするところ



■水やりをするところ



■楽しみにしていた収穫



トマトも茄子も
いっぱいになってよ！

ピーマン嫌いだけど
なんかおいしそうに
見える…

《保育者の 〇願い・思い 〇配慮事項》

〇土の感触を楽しみながら、小さな苗に愛着をもって育てようとする思いを育みたい。

〇一つ一つ何の苗かを説明し、苗を植える工程を見せる。

〇わからない時は、友だちや保育者のやり方をまねするよう伝えたり、一緒にやってみたりするなど、個別に支援する。

〇自分たちで時間をみて水やりをしたり、忘れていたらみんなで声をかけたりして、自分たちで育てることへの責任感を持ち、植物を大切にしようとする思いを育みたい。

〇苗の様子について共有し、興味ももてるようにする。

〇夏には水やりの時間帯や水の量が変わることを伝え、適切に栽培できるよう援助する。

〇実の付き方や色、形、匂い…野菜に興味を持ち、収穫の喜びを感じたり、食べることを楽しみにしたりする気持ちにつなげたい。

〇保育者が収穫する様子をみせることで、安心して活動できるようにする。

〇収穫での気づきを言葉にする子どもたちのつぶやきに丁寧に応答し、思いに共感する。

学びの芽生え、10の姿につながるポイント

① 野菜の栽培を通して、身近な自然へと興味を広げる（7 自然との関わり・生命尊重）

苗の植え付けから自分たちで行い、毎日の水やりや収穫などを通して、植物への愛着が育まれています。子どもたちは自然に触れながら、そこで感じたことを素直に表現しています。小さな気づきや驚きを見取り、一つひとつに共感していくことで、身近な自然に対する子どもたちの思いがいつそう深まっているようです。

② 育っていく植物に愛着をもち、水やりや草とり、収穫を最後までやり遂げる（2 自立心）

植物を育てることは、天候や環境によって枯れてしまうなど、思い通りに行かないことが多いもの。失敗しても、その経験が生かされるような支援を通して、「最後まで大切に育てたい」思いを丁寧に育んでいくこと、時には子どもたちとの話し合いを軸にして、最後までやり遂げようとする気持ちをつないでいきます。

《教材等の工夫》

園のみんなで育ち合うために・・・

■保育室の窓から畑の様子が見える

・収穫の当番の子どもたちが外に出ると、部屋に残っている子どもたちが窓から様子を覗き込む。

・「あそこに茄子がなってるよ」「もっとそっち！」

自分たちも一緒に収穫しているような気持ちになって、畑にいる子に野菜のある場所を伝えている。



あっちにピーマンあるよ！



収穫の様子を窓から覗く

■たくさん穫れたから、「みんなに見せてあげたい」

・今までにないほどたくさんの野菜が採れて、うれしい気持ちいっぱいの子もたち。「お部屋にいる子に見せてあげたい」

・子どもたちは乳児クラスに野菜を入れるケースを借りに行くと、友だちと一緒に野菜の入った重たいケースを運びながら、園のみんなに見せて回った。



見て見て
いっぱいとれたよ！

お店に売れるね

収穫した野菜を見せて回る

■収穫した野菜を使ってみんなでピザ作り

・友だちと協力してピザ生地をつくり、自分の好きな野菜を乗せた。友だちが乗せる様子を見ながら、育てた野菜に触れながら、苦手な野菜でも自分から選んでピザに乗せてみる子もいた。



茄子の味がしなくなっちゃうから
あまりチーズ入れないんだあ

《家庭から届いた声》

「ピザ作りの後から家で料理のお手伝いをするようになった」、「家でも野菜を育てたい」と言うので、家でも野菜の栽培をしてみた」というお話があった。半数以上の家庭から、園で行ったペットボトルを用いた簡単なピザ生地作りについて教えてほしいという声があった。

保育者の気づき、その後の子どもの育ち

この経験を通して、決めたことをみんなでやり遂げようとする姿が様々な場面でみられるようになりました。遊びの中で友だちと思いがすれ違う葛藤場面では、どうしたらみんなで気持ちよく遊べるか、自分たちで考えようとする姿もみられるようになりました。

小学校教育との円滑な接続

1年生では、あさがおや昆虫など、動植物の世話を通して、その変化や成長の様子に関心をもって働きかけられるように支援しています。気付いたことを友だちと話し合ったり、小グループで共有したりしながら、さらに工夫を考え動植物に働きかけていきます。

本事例とつながりが深い「10の姿」

7 自然とのかかわり
生命尊重

2 自立心

小学校教育活動との関連

1年 生活科
「きれいにさいてね」等